2011

綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画

（綾の照葉樹林プロジェクト）

平成 23 年度事業報告書

綾の照葉樹林プロジェクト連携会議

九州森林管理局・宮崎県・綾町
（財）日本自然保護協会・てるはの森の会

綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画（綾の照葉樹林プロジェクト）

平成 23 年度事業報告書目次

目次 1
短期行動計画 3

報告書（短期行動計画順に掲載）

1.照葉樹林文化推進事業（てるはの森の会） 5
2.プロジェクト事務局運営事業（てるはの森の会） 6
3.綾森林生態系保護地域保全管理委員会の開催（九州森林管理局） 7
4.保護林モニタリング調査（九州森林管理局） 8
5 綾森林生態系保護地域保全利用地区における教育施設整備（九州森林管理局） 9
6.保護林等の情報に関する HP の充実（九州森林管理局） 10
7.人工林から照葉樹林への復元事業（九州森林管理局） 11
8.人工林から照葉樹林への復元事業（宮崎県） 12
9.持続的林業経営エリアにおける森林整備（九州森林管理局） 13
10.照葉朱林復元ボランティア作業等の実施（九州森林管理局・てるはの森の会） 14
11 調査研究ワーキングの実施（日本自然保護協会） 15
12. 照葉樹林の実生発生に影響を与える因子等関する調査（九州森林管理局） 16
13.データベースサイトの運用・データの蓄積（日本自然保護協会） 17
14.森林環境教育（宮崎県） 18
15.生涯学習講座（綾町） 19
16.照葉樹林環境教育講座（綾町） 20
17 県有林造成事業（宮崎県） 21
18.遊歩道整備ボランティア作業（てるはの森の会） 22
19.会員情報（てるはの森の会） 23
20.綾の照葉樹林プロジェクトエリアにおける市民参加による自然林の復元調査(日本自然保護協会) 24
21.リーフレットの増刷（九州森林管理局） 25
22.綾町の自然資源マップの作成(日本自然保護協会) 26
23.ホームページ等の充実（九州森林管理局） 27

24.普及啓発事業（てるはの森の会）.....28
25.照葉樹林文化シンポジウム運営補助（綾町）.....29
26.照葉樹林研究フォーラム（てるはの森の会）.....30
27.国際照葉樹林サミット 2011.....31
28.看板の設置（九州森林管理局）.....32
29.事業説明会の開催（九州森林管理局）.....33
30.環境学習事業（てるはの森の会）.....34
31.森林セラピー基地整備事業（綾町）.....35
32. 地域づくりワーキングの設置及び運営（てるはの森の会）.....36
33.照葉大吊橋ビジターセンター運営事業（てるはの森の会）.....37
34. ふれあい調査の実施（古屋地区）（日本自然保護協会）.....38
35.綾町の里山周辺の植生調査（日本自然保護協会）.....39
36.ユネスコエコパーク推進事業（綾町）.....40

（報告書の掲載方法）１事業を１頁にまとめ、短期行動計画の順に並べて掲載。表左側は、短期行動計画。記載者から右の項目は報告書記載担当者、事業名、事業の連携先となっている。

綾川流域照葉樹林帯保護･復元計画（綾の照葉樹林プロジェクト）　短期行動計画（平成20年～24年度）

項目	項目	第Ⅱ期課題	行動計画	実施項目	主担当	報告書記載者	報告書記載事業名	連携先
1	協働の体制づくり	綾の照葉樹林プロジェクトの推進のための基盤整備	１　協定書を見直し第Ⅱ期行動計画を作成する	①　協定書を延長するとともに必要に応じて内容の見直しを検討	全			
			２　森林計画の策定し、照葉樹林の復元、地域づくりを推進する	②　本プロジェクトを規定する森林計画を策定	全			
			３　事務局体制を確立し、安定的な事務局業務の運営を行う	①　安定的な財政基盤を確立	全			
				②　２名以上の専従の雇用し、事務局業務運営を行う	全	T	照葉樹林文化推進事業	町
				③　事務局運営のための事務所の整備	全	T	プロジェクト事務局運営事業	全
2	照葉樹林の保護	保護林の計画的・順応的保全管理を実施	１　保護林の保全管理計画を策定する	① 綾森林生態系保護地域の保全管理計画策定	国・ＮＪ	国	綾森林生態系保護地域保全管理委員会の開催	NJ
				②　てるは郷土の森の保全管理計画策定	国・町			
				③　県植物群落参考林の保全管理計画策定	県			
				④　綾川上流緑の回廊モニタリング調査	国	国	保護林モニタリング調査	
			２　保全管理計画に基づき適切な保全管理を行う	①　巡視体制の構築	全			
				②　管理施設（案内板・標識等）の整備	全	国	綾森林生態系保護地域保全利用地区における教育施設整備	
			３　広く保護林等に係る各種情報を発信する	①　保護林等情報に関する HP の充実	全	国	保護林等の情報に関する HP の充実	
				②　各種パンフレットの作成	全			
				③　市民に向けた講演会の実施	全			
3	照葉樹林の復元	照葉樹林への効果的・効率的な復元を推進	１　復元手法を確立する	①　復元の基本方針（構想）を策定する	国・NJ			
				②　復元の復元手法の確立（復元手法マニュアルの作成）	国・NJ			
			２　復元手法に応じた施業を実施する	①　計画的な間伐の実施（国有林約５００ha、県有林、町有林）	国・県・町	国	人工林から照葉樹林への復元事業	
						県	人工林から照葉樹林への復元事業	
				②　持続的な林業経営を行うエリアにおける施業の実施	国	国	持続的林業経営エリアにおける森林整備	
				③　復元見本林の設置	国・NJ			
			３　市民のプロジェクトへの参加を推進する	①　市民参加型の復元作業の実施	国	国・T	照葉樹林復元ボランティア作業等の実施	
4	照葉樹林の調査研究	照葉樹林を適切に復元するための調査研究を推進し、復元に反映	１　効果的･効率的な復元のための検討体制を構築する	①　調査研究ワーキンググループの設置、運営	国・NJ	NJ	調査研究ワーキングの実施	国
				②　基本方針に基づき調査・研究体制の整備	全			
				③　他のワーキンググループ、調査研究機関との連携	全			
			２　調査･研究のための基本方針（構想）を策定し、計画的に調査を実施する	① 調査・研究の基本方針（構想）を策定	全			
				②　基本方針に基づき毎年度計画的な調査の実施	全	国	照葉樹林の実生発生に影響を与える因子等関する調査	NJ
				③　復元に必要なデータの収集と解析	国・NJ			
			３　復元効果を評価する調査研究を推進する	①　間伐後の復元状況を把握するモニタリングポイントの設置（国有林、県有林、町有林）	国・NJ			
				②　データの収集、解析、復元方法へのフィードバック方法の確立	国・NJ			
			４　人工林等からの照葉樹林への復元手法等を検討する	①人工林等から照葉樹林への効果的・効率的な復元手法について検討	国・Ｔ・ＮＪ			
				②　間伐木の処理方法等についての検討	国・Ｔ・ＮＪ			
			５　調査･研究成果の共有化及びデーターベースを構築する	①　調査・研究成果の情報発信	全			
				②　GIS を活用した林小班ごとの復元に必要な情報の整備	国・NJ			
				③　調査・研究成果の共有化・データベース化	国・NJ	NJ	データベースサイトの企画及び構築	国・T

綾川流域照葉樹林帯保護･復元計画（綾の照葉樹林プロジェクト）　短期行動計画（平成20年～24年度）

項目	項目	第Ⅱ期課題	行動計画	実施項目	主担当	報告書記載者	報告書記載事業名	連携先
5	照葉樹林を通しての環境教育	照葉樹林の重要性を学ぶ環境教育の実施	１　環境教育プログラムを策定、実践	①　環境教育を実施するための行動計画を策定	全			
				②　環境教育エリア内の必要な整備計画を策定	全			
				③　環境教育プログラムを検討し、試行的に実施	国・町・T	県	森林環境教育	
						町	生涯学習講座	T
						町	照葉樹林環境教育講座	T
				④　環境教育エリア内の環境整備	国			
			２　大吊橋周辺の活用方法を検討、ト整備を行うとともに環境教育を実践する	①　大吊り橋周辺の環境教育に関する活用方法の検討	T			
				②　必要なルート整備を実施	県・町	県	県有林造成事業	
						T	遊歩道整備ボランティア作業	県・町
				③　崩壊した九州自然歩道について新たなルートを検討し、今後の活用方法について提案	県			
6	プロジェクトの情報発信	情報発信及び支援の輪の拡大活動	１　市民や民間企業参画のためのシステムやメニューづくりを行い、プロジェクトを推進する	①　綾プロの支援メニューづくり・企業の支援メニューづくりを検討し、実践	T			
				②　サポーターの募集を行い、会員を増やす	全	T	会員情報	全
				③　市民参加型の間伐事業を実施（国有林）	全			
				④　市民参加型の林床調査を実施する（国有林、県有林、町有林）	全	NJ	綾の照葉樹林プロジェクトエリアにおける市民参加による自然林の復元調査	T
			２　広く一般にプロジェクトの内容を知ってもらい、会員の拡大を図る	①　パンフレット、リーフレットの作成及び配布	全	国	リーフレットの増刷	
				②　ニュースレター、報告書の作成及び配布	全	NJ	綾町の自然マップの作成	T
				③　HP の作成及び更新	全	国	ホームページ等の充実	
						T	普及啓発事業	全
				④　ファーラム・シンポジウムを実施	町・T	町	照葉樹林文化シンポジウム運営補助	
						T	照葉樹林研究フォーラム	全
				⑤講演会等の実施	全	T	国際照葉樹林サミット２０１１	全
						国	看板の設置	
							事業説明会の開催	全
			３　ガイドボランティアを養成し、市民の理解を深め、てるはの森の会の会員増加を図る	①　ガイドボランティア事業の実施・養成	T	T	環境学習事業	町
				②　ガイドボランティアがガイドを通して市民に綾プロを理解してもらうためのプログラム作り	T			
			４　森林セラピー基地としての綾町の取り組みを通して、会員増加を図る	①　森の案内人を通した照葉樹林の新たな活用方法を検討し、プロジェクトへの理解を深めるための森林セラピープログラムを作成	町	町	森林セラピー基地整備事業	
				②　ガイドボランティアとの連携体制についての検討	町・T			
7	照葉樹林と共生した地域づくり	自然と共生した地域づくり	１　市民との協働で実施する運営体制を構築し、市民が積極的に綾プロに参画できるようにする	①　地域づくりワーキングの設置及び運営	町・T	T	地域づくりワーキングの設置及び運営	町
				②　てるはの森の驛の活用方法を検討し、それに応じて必要な整備	町・T	T	照葉大吊橋ビジターセンター運営事業	町
				③ふれあい調査の実施	NJ・町・T	NJ	ふれあい調査の実施（古屋地区）	町･T
			２　照葉樹林文化館の活用方法を検討し、より広く活用されるようにする	①　活用方法を検討する市民協議会の設置	町・T			
				②　照葉樹林文化館の活用計画を策定	町・T			
			３　綾町の他の事業との連携のあり方を検討し、実行計画を策定する	①　活用方法を検討する市民協議会の設置	町・T			

		新規事業	※短期行動計画（平成 20 年～24 年度）策定後に計画実施された	NJ	NJ	綾町の里山周辺の植生調査	T
				町	町	ユネスコ エコパーク推進事業	

国は九州森林管理局、県は宮崎県、町は綾町、NJ は日本自然保護協会、T はてるはの森の会の略

事業名	照葉樹林文化推進事業（継続）	実施主体	綾町
項目-行動計画-実施項目	1－3－②	連携先	てるはの森の会（宮崎文化本舗）
事業概要（目的）	ふるさと雇用再生特別交付金事業を活用し、照葉樹林文化推進のため１名を雇用する。		

照葉樹林文化推進事業の委託を受けた宮崎文化本舗は1名を雇用し、てるはの森の会の職員として派遣した。てるはの森の会の事務補助として、綾プロジェクトに関わった。

委託事業費を活用した成果物として「てるはの森の会」会員募集チラシを作成した。会員の他、寄付会員（サポーター）を設け、より広く資金援助を得られるように工夫した。

当会の活動紹介、綾の照葉樹林プロジェクの活動紹介を掲載。振り込み用紙が付いている。

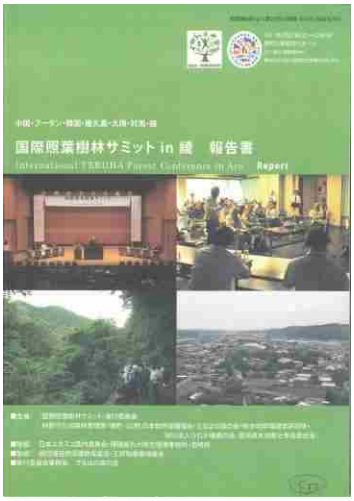
今後、イベント等が行われる際は、積極的に活用していきたい。

表

裏

てるはの森の会の活動補助の他、綾町の生涯学習講座、九州環境教育ミーティング、国際照葉樹林サミット等の補助をした。

その他、間伐材を使用した木製品販売の視察のため長野県へ、てるはの森の会活動紹介に同行して沖縄県へ視察に行った他、ユネスコエコパーク申請書翻訳料、ユネスコエコパークパンフレット増刷（広報あや）、てるはの森の会パンフレット増刷、てるはの森の会ホームページ作成費用等を支出した。



国際照葉樹林サミット報告書

事業名	プロジェクト事務局運営事業(継続)	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画-実施項目	1－3－③	連携先	連携会議
事業概要（目的）	プロジェクト関係機関との調整、問合せ対応、事業の企画運営などを行なう。 年 2 回開催の連携会議、月 1 回開催の連絡調整会議の連絡調整、資料作成等の準備を行う。		

○連携会議

回数	日時	主な議題
14	7 月 4 日	平成 22 年度の事業報告・平成 23 年度の事業計画 「国際照葉樹林サミット 2011」開催について ユネスコ「人間と生物圏(ＭＡＢ)」計画の「生物圏保存地域」について
15	1 月 19 日	平成 23 年度の事業取組状況 各種ワーキンググループの設置について 管理経営計画について 短期行動計画Ⅲ期分素案作製について

○連絡調整会議

回数	日時	主な議題
1	4 月 11 日	BR 申請について 今年度の日程について（連携会議、報告書）
2	5 月 16 日	BR 申請について 今年度の日程について（連携会議、報告書）
3	6 月 21 日	BR 申請について 今年度の日程について（連携会議、報告書）
4	8 月 4 日	BR 申請について 国際照葉樹林サミット報告書について
5	9 月 12 日	今後の日程について（間伐作業、事業説明会、連携会議） 綾大吊り橋について
6	10 月 18 日	次回間伐作業について 今後の日程について（事業説明会、連携会議）
7	11 月 25 日	間伐作業について 今後の日程について（事業説明会、連携会議） ワーキングについて
8	12 月 15 日	事業説明会開催について 今後の日程について（連携会議、間伐作業）
9	1 月 19 日	事業説明会開催について 間伐作業について フォーラムの開催について
10	2 月 27 日	管理計画について 短期行動計画について 森林の市の参加について
11	3 月 27 日	管理計画について 短期行動計画について 森林の市の参加について

事業名	綾森林生態系保護地域保全管理委員会の開催	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画-実施項目	２－１－①	連携先	NACS-J
事業概要（目的）	綾川上流緑の回廊における森林生態系保全の中心である綾森林生態系保護地域の適切な保全管理を推進するため、保全管理委員会を開催する。		

実施なし（延期）。

今後、必要に応じて開催時期を検討する。

事業名	保護林モニタリング調査	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画-実施項目	２－１－④		
事業概要（目的）	綾プロエリア内の保護林において、保護林モニタリング調査を実施した。		

綾プロエリア内の保護林（綾森林生態系保護地域、掃部岳植物群落保護林、大森岳植物群落保護林、てるは郷土の森）の調査プロットにおいて、以下の調査を実施した。

	綾森林生態系保護地域	掃部岳植物群落保護林	大森岳植物群落保護林	てるは郷土の森
森林調査	１０カ所	－	６カ所	６カ所
動物調査	－	○	○	－
植物相調査	－	○	○	○
シカ被害調査	○	－	○	－
利用動態調査	－	－	－	○
希少種等のリストアップ	○	○	○	○
歩道配置状況調査	○	－	－	－
シカ作設置箇所予備調査	○	－	○	－

綾森林生態系保護地域

原生的な照葉樹林の森林相観が保存されている。一方、代表的な種の後継樹が、シカ食害により生育を妨げられているとみられ、林相の変化が生じる恐れがある。

掃部岳植物群落保護林

南限のブナが点在して生育している状況が確認された。林床植生はシカの不嗜好植物や萌芽力の強い種（ハイノキ等）が優先しており、**ブナの更新の停滞が懸念**される。

大森岳植物群落保護林

照葉樹林の後継樹（アカガシ、ウラジロガシ等）が出現しており、**現状の林相の継続が見込まれる**。ただし、下層植生の衰退が懸念される。

てるは郷土の森

照葉樹林の後継樹（イチイガシ等）が出現しており、**現状の林相の継続が見込まれる**。ただし、下層植生の衰退が懸念される。大吊橋付近を中心に多くの利用者があり、良好に利用されている。入り込み状況によっては、クマタカの繁殖への影響が懸念される。

調査風景(自動撮影装置の設置)

林況（掃部岳植物群落保護林）

事業名	綾森林生態系保護地域保全利用地区における教育施設整備	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画-実施項目	２－２－②		
事業概要（目的）	綾森林生態系保護地域の保全利用地区（バッファーゾーン）において、森林環境教育的な利用を推進するため、説明の板を設置した。また製材所跡地における間伐木の整理などの整地をおこなった。		

綾森林生態系保護地域の保全利用地区において木製説明板を設置した。
枠及び支柱には木材を使用し、綾の照葉樹林プロジェクトの説明及び森林とその歴史等について説明したものである。

【 製 材 跡 地 の 看 板 の 設 置 】

綾森林生態系保護地域の保全利用地区の製材所跡地において、森林環境教育の利用を促進するため、間伐木の整理や除伐等を行った。

製材所跡地

事業名	保護林等の情報に関する HP の充実	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画-実施項目	２－３－①	連携先	
事業概要（目的）	綾の照葉樹林プロジェクトに関係する保護林の概況等を紹介するページの更新をした。		

綾の照葉樹林プロジェクト内に位置する掃部岳植物群落保護林、大森岳植物群落保護林、綾森林生態系保護地域、てるは郷土の森について、概況等を紹介するホームページは以下の通りである。
モニタリング調査の結果を基に、より充実した内容となるよう更新を行った。

掃部岳植物群落保護林
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/sidou/hogorin/kamondake.html

大森岳植物群落保護林
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/sidou/hogorin/oomoridake.html

綾森林生態系保護地域
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/sidou/hogorin/aya.html

てるは郷土の森
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/sidou/hogorin/teruhakyoudo.html

事業名	人工林から照葉樹林への復元事業	実施主体	九州森林管理局
項目－行動計画－実施項目	３－２－①	連携先	
事業概要 （目的）	綾の照葉樹林プロジェクト環境教育等への利用エリア及び復元エリアの国有林において、人工林を照葉樹林に復元するための間伐作業を実施した。		

綾の照葉樹林プロジェクト小エリア毎の復元作業内容

１．エリア５（保護林と保護林との間にある復元エリアの人工林を抜き伐りし、かつての照葉林へ復元する作業を実施）
・間　　伐　　１７．１０ha

２．エリア９（アクセスが良く、環境教育、セラピー的利用を目指すエリアの人工林を抜き伐りし、照葉樹林へ復元する作業を実施）
・間　　伐　　３６．８７ha
・作業道新設　　２，０００ｍ

間伐状況

作業道整備状況

事　業　名	人工林から照葉樹林への復元事業(継続)	実施主体	宮崎県
項目-行動計画-実施項目	３－２－①	連　携　先	
事　業　概　要（目　　的）	スギ人工林の混交林化への誘導技術に関する研究を継続実施（試験期間：平成１９年度～平成２３年度・５ヶ年間）		

スギ人工林の混交林への誘導技術に関する研究概要

宮崎県林業技術センター

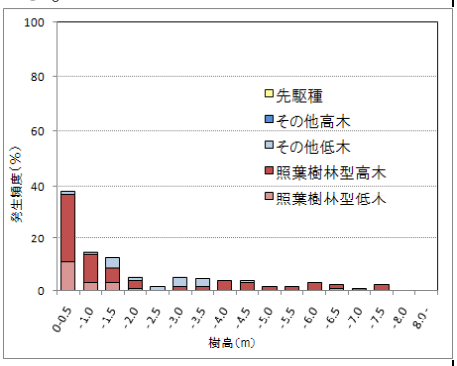
○これまでの経緯

綾町諸県県有林24林班内の55年生スギ林内に2007年に本数率で０、30、50％の間伐試験区を設け調査を行った。林分の概況については、平均樹高17.3～18.4mと上長成長は劣り、地位はⅢ（平成19年度ｽｷﾞ林分収穫予想表）であった。広葉樹の侵入の程度は比較的多く、試験地に隣接する場所に広葉樹が見られた。間伐時には、林内に侵入している広葉樹をできる限り伐採しないように施業を行った。

○調査の内容

林内の植生について継続調査を行った結果、間伐後３年で木本植物の種数本数はどの試験区においても、ほぼ同数で100m2当たり23～24種、136～138本であった。樹高についても試験区における差はなく、平均で1.62m～1.74mであった。調査区内の木本植物を生活型及び生活形式によって５グループ、①先駆種、②照葉樹林型高木種、③照葉樹林型低木種、④その他高木種、⑤その他低木種、に分けた。この５グループの樹高階分布は、どの試験区でも同様の傾向を示したため、例としてを０％無間伐区の結果を図－１に示す。ほぼ全ての樹高階でタブノキ、バリバリノキ、ヤブニッケイなどの照葉樹林型高木種が多くみられた。照葉樹林型高木種は、0.5m以下の稚樹が最も多かったが、5.0m以上の個体も約10％存在し亜高木層を形成している。この試験地では垂直的なの階層構造がみられた。照葉樹林型高木種の0.5m以下の個体が多い理由として、周辺からの種子の供給に加え、間伐時に伐採せずに残した個体も種子の供給源となっていると推察される。

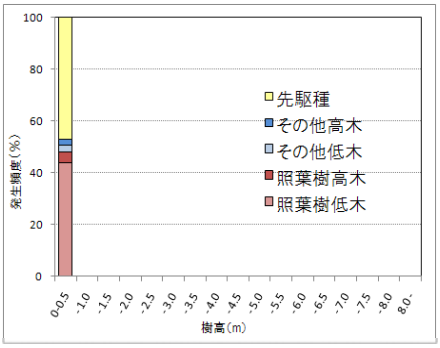
ここで、同様に混交林化を目的とした試験（０、30、50％で強度を変えた間伐）を行っている美郷町西郷区の32年生スギ林の間伐後３年の結果を図－２（木本植物の発生が最も多い50％試験区の結果）に示す。この試験区では間伐時の下層植生がほとんど無い状態であった。間伐後３年で219本の個体を確認できたが、全てが0.5m以下で階層構造はみられなかった。また、生活型をみると、先駆種や低木性の樹種が90％以上を占め、混交林化を図る上で不可欠な高木性樹種の侵入は少ない状況であった。



図－１
綾町０％試験区の樹高階分布

以上より、綾町の試験区では間伐強度による下層植生の状況に差異がなく、間伐の効果は小さかった。ここでは、間伐以前から広葉樹の侵入が多く、スギの下層に亜高木層及び低木層が形成されているため、スギを段階的に間伐（除伐）することで早期の広葉樹林化が可能と考えられる。また、間伐時に侵入している広葉樹を残すことは、種子の供給源として林内の稚樹発生を促すことになるため重要である。

しかしながら、美郷町西郷区の試験区のように、下層植生が乏しい林分では間伐による早期の混交林・広葉樹林化は困難である。複数回間伐を行い、広葉樹の成長及び侵入を促すことや、場合によっては樹下植栽の検討も必要である。スギ人工林で混交林・広葉樹林化を行うには現場条件に合わせた施業が必要である。



図－２
西郷区50％試験区の樹高階分布

事業名	持続的林業経営エリアにおける森林整備	実施主体	九州森林管理局
項目－行動計画－実施項目	３－２－②	連携先	
事業概要（目的）	綾の照葉樹林プロジェクトの持続的林業経営エリアにおいて、水土保全機能を高めるため保育間伐及び除伐作業を実施した。		

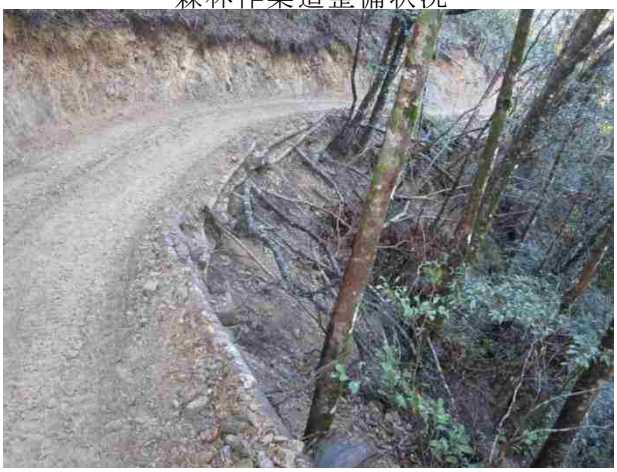
綾の照葉樹林プロジェクト持続的林業経営エリアの作業内容

１．エリア１１（持続的林業経営エリアにおいて、水土保全機能を高めるための保育間伐作業を実施）

・間　　伐　　８．５０ha　（森林作業道整備）
・除　　伐　　５．６９ha
　　計　　１４．１９ha

間伐状況

森林作業道整備状況



事業名	照葉樹復元ボランティア作業等の実施	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画-実施項目	３－３－①	連携先	てるはの森の会
事業概要（目的）	ボランティア用見本林（２０４５よ林小班）において、復元作業を実施した。		

平成２３年１１月２６日に、第９回目となるボランティアによる照葉樹林復元作業等を、ボランティア２４名（新富町山岳会、宮崎大学　学生、綾町民など）の参加の下、実施した。

作業前に、綾の照葉樹林や作業の目的を説明、間伐作業では、インストラクターによる復元作業マニュアルの説明及び伐採の実演に始まり、参加者を５班に分けて、傾斜の緩やかな箇所で実施しました。

参加者は、子供を含めた家族や、夫婦、大学学生と様々で、中には鋸や鉈を持つのも初めての人も見受けられ、インストラクターの丁寧な指導の下、１時間半程度の伐採作業を体験するとともに、間伐作業終了後に参加者で昼食を囲み、参加希望者による「森の散策」を実施しました。

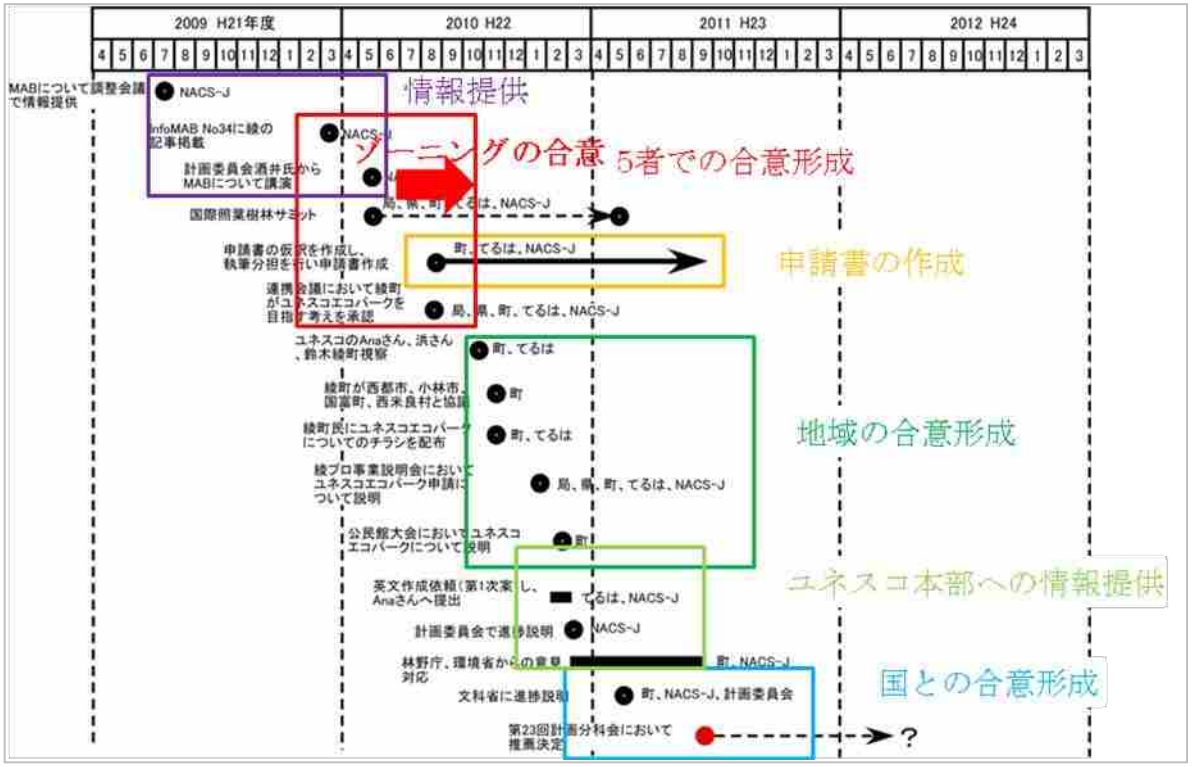
＜ 復元作業＞

地面（林床）まで日光がよく届くように、人工林のスギやヒノキを抜き切り（間伐）し、地面（林床）に照葉樹（カシ、シイ類）の芽が出やすくしたり、既に生育している照葉樹を大きくする　ために行う作業です。

間伐作業の様子

事業名	調査研究ワーキングの実施（継続）	実施主体	NACS-J
項目-行動計画-実施項目	４－１－①	連携先	九州森林管理局 てるはの森の会
事業概要 （目的）	綾の照葉樹林プロジェクトエリアにおける照葉樹林の復元方法を科学的に検討し、適切な復元が実施されるように助言を行う。復元に必要な調査やデータの解析を行い、その結果を復元に反映させる。また、間伐予定地、見本林の視察を行い助言をし適切な復元が行われるように助言をする。		

調査委研究ワーキングは実施できなかったが、9月28日の国内委員会において綾町がユネスコエコパークの申請を行うための作業を支援した。具体的には下記の図のようなプロセスにしたがって作業を行った。すなわち、2009年7月MABについての情報提供を実施、2010年2月ゾーニングの検討、2010年7月申請書作成、2010年10月地域の合意形成、2011年3月ユネスコへの情報提供、2011年4月以降申請書の修正を通して国との合意形成を図った。結果2011年9月28日の文科省主催「日本ユネスコ国内委員会自然科学小委員会人間と生物圏（MAB）計画分科会第23回会議において綾町のユネスコエコパーク申請が正式に承認された。



事業名	照葉樹林の実生発生に影響を与える因子等関する調査	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画-実施項目	4－2－②	連携先	ＮＡＣＳ－Ｊ
事業概要（目的）	復元エリアにおいて、種子供給源からの距離や地形等の因子、種子供給源の種子散布量及びシカが実生発生に与える影響、間伐の有無及び方法による下層植生への影響を調査・分析を実施。		

綾の照葉樹林プロジェクトの復元エリア（人工林及び二次林を含む）において、効率的、効果的な照葉樹林への復元に資するため、既設プロットを対象に、①間伐の有無及び間伐方法の相違による下層植生への影響、②種子供給源からの距離別実生発生状況、③種子供給源の種子散布量、④シカによる影響などについて調査した。

〈主な調査結果〉

(1)間伐の有無及び間伐方法の相違による下層植生への影響調査

列状間伐実施箇所では、シカの不嗜好種の稚樹が低木層を形成しているパターンと、シカの不嗜好植物が草本層に繁茂して更新・復元が停滞しているパターンに分かれた。間伐実施から3～4年経過したプロットは実生の総数がやや減少傾向にあり、林冠の閉鎖や、草本層の繁茂、埋土種子の枯渇が要因として考えられる。

(2)種子供給源からの距離別実生発生状況調査

種子供給源から離れるに従い、出現実生数は減少した。間伐を行った箇所では実生発生の促進がみられたが、シカの不嗜好植物が増える傾向にあり、実生の発生が抑えられている箇所も見られた。間伐を行わなかった箇所では実生は増加せず、大きな変化が見られなかった。土壌条件の中で実生本数と一番相関がみられたものは土壌 pH であった。

(3)種子供給源の種子散布量

種子供給源から離れるに従い、種子の上空からの散布量は減少した。人工林内に上空から散布されていた種子は、大半が鳥散布のものであった。シイ・カシ類種子は、上空からは人工林内にほとんど散布されていない。但し、本年度は成熟種子が少なく、動物によって運搬されたと見られる種子は確認されている。シードトラップで捕捉された種子と、発生している実生の間に類似性は少なかった。

(4)シカによる影響調査

全てのシカ防護柵設置箇所において、柵内では新規実生の数が柵外のものを上回ったことから、シカの採食を免れたことが、実生の増加につながったと考えられる。シカの不嗜好植物が草本層に繁茂している箇所では、柵内であっても実生はほとんど確認されなかった。

プロットの実生調査

シードラップによる種子の捕捉

事業名	データベースサイトの運用、データの蓄積（継続）	実施主体	NACS-J
項目-行動計画-実施項目	４－５－③	連携先	九州森林管理局 てるはの森の会
事業概要（目的）	SISPA（戦略的保全地域情報システム）のデータベースのグループ化機能を使って綾プロで作成された各種情報を登録し、関係者間で共有できるようにする。特に市民参加調査で得られた情報を登録し、参加者や関係者が閲覧できるようにする。		

データの共有という点に関してはまだ実施ができていないが、綾に関する作成したデータは逐次データベースへの登録を進めている。今年度はエコパークに関わるデータとしてエコパークのエリア区分、保護地域などのGIS情報をはじめ、気象ロガーのデータ、古屋のふれあい調査で作成した地図、ボランティア林床植生調査の調査データなどを蓄積した。

また照葉樹林サミットにおいて「照葉樹林の潜在的分布域と保護の現状」という題で、SISPAにこれまで蓄積したデータを用いた解析をポスター発表した。この内容はSISPAウェブサイト、https://sites.google.com/a/sispa.info/v3/shouyoujuringenjouで閲覧できる。

事　業　名	森林環境教育（継続）	実施主体	宮　崎　県
項目-行動計画-実施項目	５－１－③	連 携 先	
事　業　概　要（目　　的）	原生的な照葉樹林が分布するエリアにおいて、民間を対象とした森林環境教育として「しいたけ栽培体験」を実施した。		

１　森林環境教育として「しいたけ栽培体験」を実施

１）参加者数　　６０名（計画７０名）

２）事業実施期間　　平成２４年２月４日（土）

３）しいたけ駒打ち説明会（しいたけの育て方や駒打ち作業の説明会）

４）しいたけ駒打ち作業

事業名	生涯学習講座	実施主体	綾町
項目-行動計画-実施項目	5-1-③	連携先	てるはの森の会
事業概要（目的）	「自然と調和した豊かで活力に充ちた教育文化都市綾町」創出のため、綾の照葉樹林を中心とした自然について専門家の講義を聴き、町民の保護運動参加への一助とする生涯学習講座を開設した。		

講座実施状況　　6月から実施　　延べ149名参加

				（　　）講師	
第 1回	6月14日（火）	屋外	食用可・薬草を知る	竹野	（河野　耕三）
第 2回	7月12日（火）	屋外	希少植物	倉輪	（河野　耕三）
第 3回	8月16日（火）	屋外	里に良くみられる植物	明見神社付近	（河野　耕三）
第 4回	9月13日（火）	屋外	迫田の植物	大平山	（河野　耕三）
第 5回	10月11日（火）	屋外	尾立の遺跡を知る	尾立公民館付近	（河野　耕三）
第 6回	11月 8日（火）	屋外	植物探索	川中ｾﾗﾋﾟｰｺｰｽ	（河野　耕三）
第 7回	12月13日（火）	屋外	冬の植物観察	照葉大吊橋周辺	（河野　耕三）
第 8回	1月10日（火）	屋外	里の植物の観察	錦原・野首公園	（河野　耕三）
第 9回	2月14日（火）	屋外	上畑の文化財と里の植物	上畑公民館付近	（河野　耕三）
第10回	3月13日（火）	屋外	里山の植物	古屋地区尾原	（河野　耕三）

6月竹野地区

9月大平山

事業名	照葉樹林環境教育講座 （綾小学校児童・綾中学校生徒対象）	実施主体	綾町
項目-行動計画-実施項目	5―1―③	提携先	てるはの森の会
事業概要 （目的）	子供達が、貴重な財産である照葉樹林について理解を深め、同時に自然意識の高揚を図る。綾小、綾中学校で実施した。		

■綾小学校

対象児童　４年生児童６８名＋担任３名＝７１名

講　　師　フェニックス宮崎ネイチャゲームの会　古田栄子氏他３名

実施期日　平成２３年１２月１５日

実施場所　綾神社と野首遊歩道

実施内容　ネイチャゲーム「体験活動」

①　葉っぱジャンケン　②　音いくつ　③　ディスカバーウォーク

④ サイレントウォーク　⑤　紅葉を眺めよう　⑥　森と水の話：まとめ

■綾中学校

対象児童　１、２年生徒対象１４０名

講　　師　河野耕三氏

実施期日　平成２４年２月９日

実施場所　綾中学校

実施内容　講演　「綾町のすすめているユネスコ エコパーク」について

綾小学校（綾神社）

事　業　名	県有林造成事業（継続）	実施主体	宮崎県
項目－行動計画－実施項目	5－2－②	連 携 先	
事　業　概　要（目　　的）	針・広混交林化を進めるエリアにおいて、森林環境教育や保健休養的利用を促進するため、間伐、獣害防除、修景整備（作業道等の草刈）を実施した。		

1　間伐事業

1）実施面積　　７．６０ｈａ

2）事業実施期間　　１２月～３月

間伐着手前

間伐実施後

2　獣害防除事業【２５世紀の森（カヤとスギの複層林）の維持管理】

1）実施面積　　３．２３ｈａ

2）事業実施期間　　１０月～３月

シカ害対策地　全景

カヤ植生状況

3　管理道維持管理

1）路　　線　　名　　作業道小屋ヶ谷線他　Ｌ＝8,100m

2）事業実施期間　　７月～１０月

作業前（草刈）

完　成

事業名	遊歩道整備ボランティア作業	実施主体	てるはの森の会
項目−行動計画−実施項目	5-2-②	連携先	宮崎県・綾町
事業概要（目的）	大吊り橋上の遊歩道（諸県県有林・綾町有林）を整備し、新たな散策ルートとして活用する。 看板を設置し、コースの始発点・最終点に案内板を設置した。持って歩けるようなコース案内図作製した。		

○遊歩道整備作業（9月23日）

昨年から取り組んでいる諸県県有林・綾町有林の遊歩道整備事業。

今年度は下草刈りを実施した。7名参加。

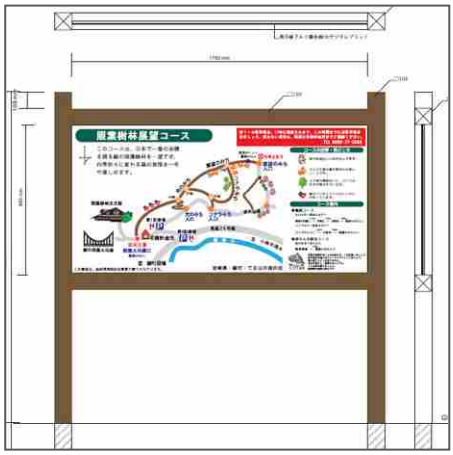
○看板設置　（9月29日）

9月6日設置場所を調査。

29日県有林遊歩道に案内板を設置。

大看板２基設置　（照葉大吊橋広場・行き止まり）

小看板２基



大看板

○ＭＡＰチラシの作製

持って歩けるようなコース案内図1500部を作製した。

ＭＡＰチラシ

○古参道調査（12月16日）

九州自然歩道が大吊り橋付近で通行不能のため、大替候補の古参道を調査した。12名参加

綾町猟友会2名が案内してくれた。

事業名	会員情報	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画-実施項目	6-1-②	連携先	全
事業概要（目的）	サポーターの募集を行い、会員を増やす。		

○会員数：H24.3.27現在

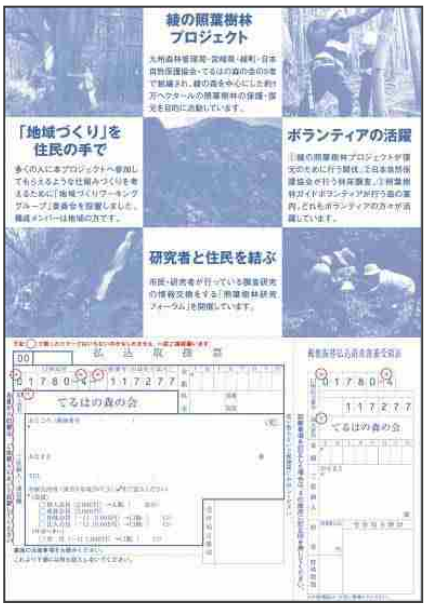
個人会員	126件	（-1）前年比
家族会員	28件	（+1）
法人会員	25件	（+0）
団体会員	14件	（+0）

○会費収入　　560,880円

○寄付金収入　　153,510円

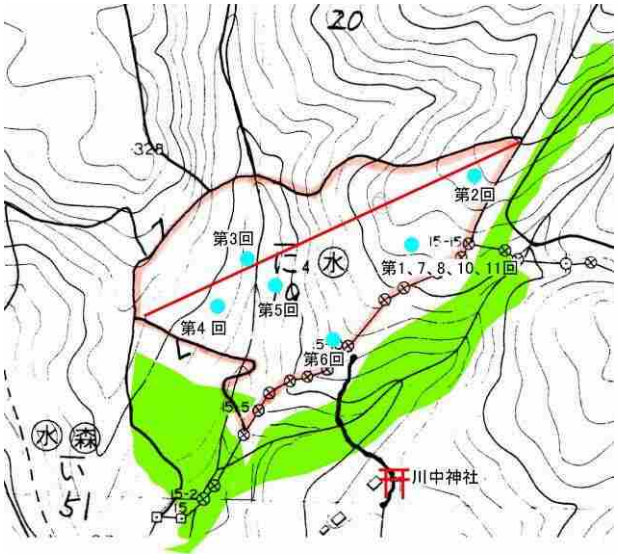
吊り橋募金	21,010
企業寄付	100,000
個人寄付	32,500
計	153,510

○サポーター募集チラシの作製



事業名	綾の照葉樹林プロジェクトエリアにおける市民参加による自然林の復元調査（継続）及び自然林の調査（継続）	実施主体	NACS-J
項目-行動計画-実施項目	６－１－④	連携先	てるはの森の会
事業概要（目的）	人工林から照葉樹林の復元に必要な具体的手法を決定していくために、自然林に隣接する人工林、二次林において市民参加による林床調査、間伐を行い、その組成、構造、更新状態をモニタリングし、復元方法の検討に寄与する。掃部岳周辺における自然林の垂直分布に関する調査を実施する。		

間伐作業に合わせて間伐前の予定地の林床植生調査を市民参加で実施した。
調査は2011年11月24日（参加者8人）第9回、27日（9人）第10回、2012年1月21日（10人）第11回、2月24日（6人）第12回、27日（8人）第13回に実施した。
第10回と11回は2006年に調査した場所の再調査と新たな見本林における間伐地の林床植生を調査した。特に第12回、13回は1週間前に設置したシカ柵（約10m×30m）内で調査を実施しており、今後第9回に調査した対照区と比較を行って行く予定。
調査の結果は照葉樹林だよりの29号、30号に掲載した。



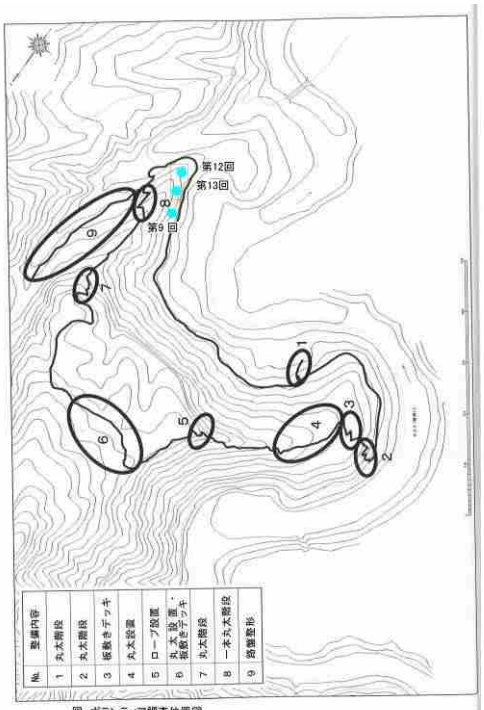
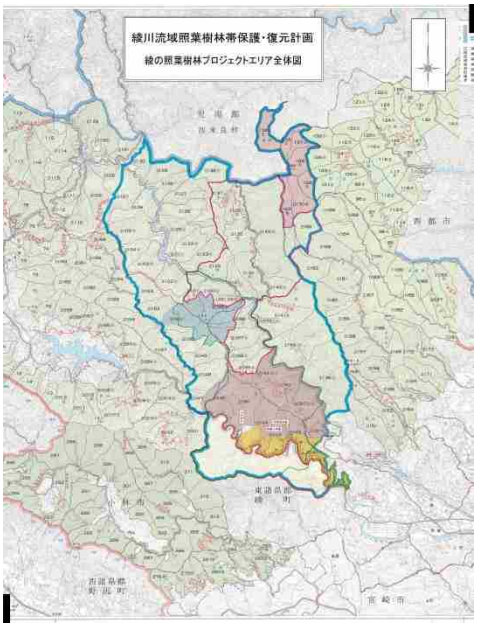


図１　第10回、11回は2006年に実施した調査を再調査した。第9回は新たな見本林における間伐地、第12回、13回はシカ柵設置内の林床植生を調査した。今後、第9回を対照区として変化をモニタリングして行く予定

事業名	リーフレットの増刷	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画-実施項目	６－２－①	連携先	
事業概要（目的）	綾の照葉樹林プロジェクトの取り組み内容を知ってもらうため、リーフレット・綾の照葉樹林プロジェクト[綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画]を増刷した。		

広く一般に綾の照葉樹林プロジェクトの取り組み内容を知ってもらうため、3000部を増刷し各連携機関へ配布した。

リーフレット（ 裏面 ）



事業名	綾町の自然資源利用マップの作成	実施主体	NACS-J
項目-行動計画-実施項目	6－2－②	連携先	てるはの森の会
事業概要（目的）	綾町における農業、林業、漁業、工芸、養蜂家、キノコ栽培農家など様々な業種の方々にヒアリングを行い自然資源を利用している場所、時期、利用方法、利用量、販売先あるいは消費先などを明らかにする。これらの結果を「綾町の自然資源利用マップ」として一枚の地図を作図する。これらの調査結果はMABの綾BR地域協議会（仮）や綾町の生物多様性戦略策定に活用する。		

6月20日綾猟友会の小西氏にヒアリング、11月25日綾漁業組合の増田氏、土師氏にヒアリング、12月15日綾猟友会の坂本氏、小西氏にヒアリング、1月21日月脚氏に竹細工についてヒアリング、2月24日中竹氏にニホンミツバチの採蜜についてヒアリングを行った。里やまから奥山に至るまでさまざまな場所が人によって利用している実態がよくわかった。特に里やまから奥山かけての境界部において狩猟だけでなく、竹林の利用やニホンミツバチの採蜜が行われていることがわかった。この地域はユネスコエコパークの緩衝地域に相当するエリアになる。また、ヒアリングを通して狩猟者の置かれている状況、竹細工職人の不在、漁業の困難、ニホンミツバチの急激な減少など社会学的自然科学的状況も知ることができた。

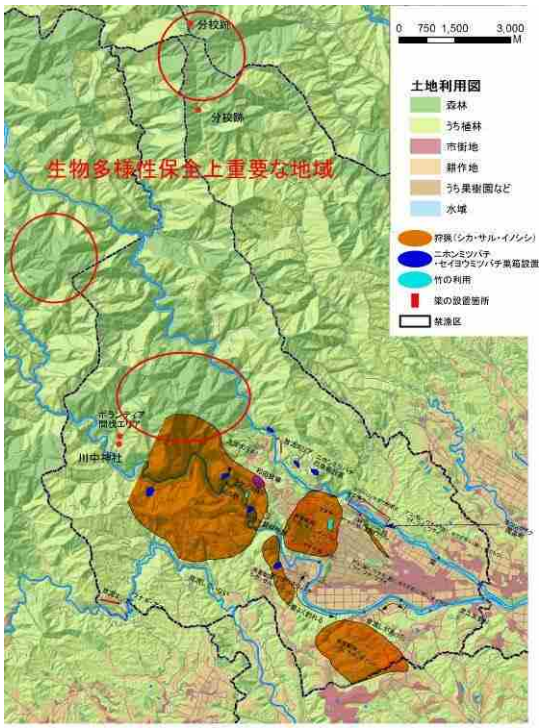


図　綾町の自然資源利用マップ（4業種）

事業名	ホームページ等の充実	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画-実施項目	6－2－③	連携先	
事業概要（目的）	綾の照葉樹林プロジェクトで実施している取組について、局ホームページ等に掲載し広く情報を発信した。		

九州森林管理局ホームページ「森への招待」（綾の照葉樹林）や「広報九州」に、連携会議、ボランティアによる復元作業、事業説明会について掲載した。

「綾の照葉樹林プロジェクト」ホームページアドレス
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/aya/index.html

【綾照葉樹林プロジェクト待ち受け画面】

事業名	普及啓発事業（継続）	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画-実施項目	６－２－③	連携先	全
事業概要（目的）	ホームページのリニューアルやニュースレターの発行、イベントでの展示ブース出展等の広報活動を行なう。 ホームページ上にて報告書を掲載。会員募集チラシを作製した。		

○てるはの森の会のホームページのリニューアル
http://teruhanomori.com/

○てるはの森の会 facebook

○広報誌「照葉樹林だより」の発行
（年４回発行）

・第 27 号　 8 月 20 日発行
・第 28 号　10 月 20 日発行
・第 29 号　12 月 20 日発行
・第 30 号　 3 月 20 日発行

照葉樹林だより　第 30 号

○2010 綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画報告書
http://teruhanomori.com/wp-content/uploads/2010.pdf

○てるはの森の会会員募集チラシ

事業名	照葉樹林文化シンポジウム運営補助	実施主体	綾町
項目−行動計画−実施項目	6―2―④	提携先	
事業概要（目的）	実行委員会に対する運営補助。 昭和６０年３月に「照葉樹林都市宣言」をし、その年に第１回照葉樹林文化シンポジウムが開催され、今回で１６回目を迎えた。 再開１０周年記念特別企画として、照葉樹林文化論が生まれた原点である「探検」に着目し、シンポジウムを開催した。		

日　　時　　平成２３年１０月１６日（日）　午後１時３０分～午後５時まで
場　　所　　てるはの森の宿
参加実績　　約８０名

開会挨拶	綾町長 上野　登　会長
基調講演	角幡　唯介（探検作家） 「ヒマラヤの大峡谷に挑む」
パネルディスカッション	「探検から生まれた照葉樹林文化論」 パネリスト 上野　登　会長 川原　一之（記録作家） 角幡　唯介（探検作家） コーディネーター 小川　渉（シンポジウム実行委員）

基調講演

パネルディスカッション

事業名	照葉樹林研究フォーラム	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画-実施項目	6―2―④	提携先	全
事業概要（目的）	5月に「国際照葉樹林サミット2011」が開催されたため、本年度の照葉樹林研究フォーラムは実施しなかった。		

事業名	国際照葉樹林サミット 2011	実施主体	国際照葉樹林サミット実行委員会
項目-行動計画-実施項目	6-2-⑤		
事業概要（目的）	「国際照葉樹林サミット 2011」は、5 月 21 日(土)～ 22 日(日)に綾町公民館文化ホールで開催した。 21 日は基調講演、3 分科会、全体討議の後、大会宣言を採択した。翌22日は6コースに分かれて、現地見学会を実施した。2 日間延べ 696 人の参加があり、成功裏に終了した。		

○　主催者：「国際照葉樹林サミット」実行委員会
（林野庁九州森林管理局、綾町、日本自然保護協会、てるはの森の会、
総合地球環境学研究所、NPO 法人ひむか維森の会、宮崎県木材青壮年会連合会）

○　日時及び開催場所
期間：2011 年 5 月 21 日(土)～ 22 日(日)　　開催場所：綾町公民館文化ホール

○　参加者数

	全体数延べ人数（大会+現地見学会）	20 日(金)	21 日(土)		22 日(日)
		前夜祭	大会	交　流　会	現地見学会
綾町	343	5	305	58	38
綾町以外	353	31	225	105	95
合計	696	36	530	162	131

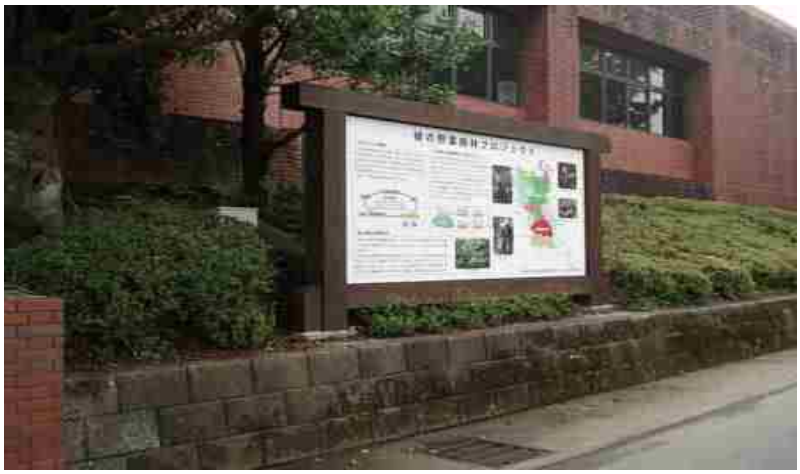
○プログラム

日程	時刻	実　施　事　項
5/21(土)	10:00	開会挨拶　　前田　穰氏　　沖　修司氏　　星野一昭氏
	10:30	基調講演　　大澤雅彦氏　　魯　元学氏
	12:10	昼食
	13:00	分科会 1 照葉樹林を活かした地域づくり 2 里山照葉樹林の恵みと危機 3 照葉樹林・生活文化の発展的継承 4 体験分科会（親子で作る木工教室）
	15:15	ポスターセッション（照葉樹林の研究・活動紹介など）
	15:50	全体討議　　湯本貴和・大澤雅彦・河野耕三・松田裕之・岡村和哉
	17:35	大会宣言
	17:45-18:00	閉会挨拶　上野　登　（「国際照葉樹林サミット」実行委員長）
	18:30	交流会
5/22(日) 9:00～ 14:00	現地見学会	A 森林総研プロット見学と大森岳林道散策 B 綾南林道（多古羅）作業小屋～分校跡 C 森林セラピー体験（川中国有林） D 猟師が案内する綾の森 E 綾の森を一望するﾄﾚｯｷﾝｸﾞﾙｰﾄめぐり F 綾ほんものセンター見学と伝統工芸めぐり

事業名	看板の設置	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画-実施項目	６－２－⑤	連携先	各連携機関
事業概要（目的）	綾の照葉樹林プロジェクトの取り組みを、広く一般に知ってもらうために、看板を設置した。		

綾の照葉樹林プロジェクトの取り組みを、広く一般に知ってもらうために、各連携機関と協働で綾町役場正面玄関横及び川中キャンプ場近くの２ヶ所に設置した。

綾町役場正面玄関横に設置した看板



事業名	事業説明会の開催	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画-実施項目	6－2－⑤	連携先	連携会議各機関
事業概要（目的）	綾町民の方々を対象に事業説明会を開催し、各機関の取組等を説明した。		

事業説明会は、1月19日に綾町高年者研修センターにおいて、ユネスコエコパーク（生物圏保存地域：BR）の概要と国内推薦に寄与した綾プロジェクトの役割と活動内容等について、地元住民（綾町民等）に対し説明した。

各関係機関は、①綾プロエリアの保護制度と綾プロの役割（宮崎森林管理署）、②綾ユネスコパークの概要と経緯（綾町）、③BR海外先進事例紹介（日本自然保護協会）、④宮崎県有林遊歩道（宮崎県）、⑤地域づくりWG「MAB計画委員会綾視察と綾町宝再発見（てるはの森の会）について説明がなされました。

当日は、あいにくの雨の中でしたが、130人以上に及ぶ綾町民及び報道関係者等が参加し、質疑・意見交換を行い終了した。

事業説明会の様子

事業名	環境学習事業（継続）	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画-実施項目	6-3-①	連携先	綾町
事業概要（目的）	①照葉樹林ガイドボランティア実践活動 ②プロジェクトの視察 ③綾の沢調査の実施協力		

①照葉樹林ガイドボランティア実践活動

綾町照葉樹林の代表的景勝地大吊り橋周辺遊歩道2kmをボランティアガイドの案内で散策する。昨年12月から大吊り橋が改築工事のため渡れなくなったため、来場者が激減した。10月オープン以降にガイド活動は集中した。

・ガイドスキルアップ講座は10月に2回実施した。参加者は9名。

参加者合計　16回　308名

実施月	実施回数	参加者数	実施月	実施回数	参加者数	実施月	実施回数	参加者数
4 月	2 回	4人	8 月	2 回	51人	12 月	1回	3 人
5 月	なし		9 月	なし		1 月	なし	
6 月	1回	14 人	10 月	5 回	117 人	2 月	1 回	16 人
7 月	なし		11 月	3 回	87 人	3 月	1 回	16 人

・2月25日は昨年に続き上畑体験ツアーを実施した。参加者は14名。

・12月16日**綾古道調査。**　参加者は12名

②綾の照葉樹林視察の対応　　参加者合計　9回　95名

・視察対応（4/25 月）大阪市
・視察対応（8/7 月）　大村市役所職員
・視察対応（10/27 木）国士舘大学学生
・視察対応（11/11 金）ラオス（JICA）
・視察対応（11/30 水）南島原市林業振興会
西有家支部
・視察対応（12/5 月）
林業・山業創出支援対策事業
・視察対応（12/21 水）韓国，忠南地域自活センター
・視察対応（1/21 金）長崎市伝習所
・視察対応（2/5 日）　御殿場市高根地区まちづく

吊り橋完成前のガイド

③綾の沢調査

・Hydrological Research Letters 誌（5 巻:21－26 ページ）に論文発表（4 月）
Factors affecting long-term reduction in river flow in a large forested catchment in Aya、Miyazaki Prefecture, Japan
宮崎県綾町の森林流域における河川流量の減少を引き起こす要因
（林裕美子・高木正博・小寺浩二・蔵冶光一郎・村上哲生）

・日本陸水学会・松江大会でポスター発表（9/23）
「照葉樹林の渓流の水質の季節変動と水生昆虫」

・Zootaxa 誌（3157 巻：1-17 ページ）に論文発表（1 月）
The genus Anisocentropus McLachlan (Trichoptera, Calamoceratidae)in Japan.
日本のコバントビケラ属（アシエダトビケラ科）（伊藤富子・林裕美子・司村宜祥）

事業名	森林セラピー基地整備事業	実施主体	綾町
項目-行動計画-実施項目	6―4―①	提携先	
事業概要（目的）	日本有数の照葉樹林地帯である綾町は、平成１９年３月２２日に「森林セラピー基地」としての認定を受けた。そこで照葉樹林を含めた森林地帯をますます有効な地域資源として活用するため、森林・産業・観光・健康増進を組み合わせ、地域振興に資することを目的とする		

① 森の案内人定例会

森林セラピーに従事していただく森の案内人（17名）による定例会を開催。毎月定例にすることで、案内人同士のセラピーに対する考え方の統一性を図り、またお互いの情報交換の場であり、スキルアップにも繋げている。

またそれぞれで部会を作り、今後のイベント（ツアーなど）等の企画立案を行ったり、マップやＰＲチラシを作成するなど、積極的に森林セラピーの推進に努めている。

② 森林セラピー関係機関会議

昨年、九州・沖縄の森林セラピー基地が集まり、「九州・沖縄森林セラピー基地ネットワーク会議」を設立した。定期的に担当者会や総会を行い、横のつながりを強化し、九州全域のツアーなどを企画し、セラピーの推進に努める。

③ コース等整備

森林セラピーコースの充実化・安全性を高めるためコースの整備を行った。　また、新たなコース設定のための整備も行った。

森の案内人の会定例会

セラピー体験

事業名	地域づくりワーキングの設置と運営	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画-実施項目	7-1-①	連携先	綾町
事業概要（目的）	地域づくりWGは、綾プロジェクトの推進体制や当プロジェクトを活用した地域振興等に関する事項を検討することを目的とする。 ①4/7 ②5/12 ③9/7 ④10/6 ⑤11/7 ⑥12/8 ⑦1/19 ⑧2/9 の全８回実施		

今年度は地域自然掘り起こしのマップづくりを行った。

５月開催の「国際照葉樹林サミット」では各分科会のレポーターとして報告を行い、１月の綾プロ説明会では、ワーキングの取り組みについて発表した。エコパーク登録への側面支援と日頃の活動の報告を行い、広く広報出来た。また、来年度予定しているエコパーク登録記念事業について意見を出している。

会議のようす

回	日　程	講　座　内　容	参加数
1	H23.4月7日(木) 19：00～21：00	ユネスコエコパークを利用した町づくり　　マップを作ってみよう！	10人
2	H23.5月12日(木) 19：00～21：00	「国際照葉樹林サミット2011」について ・レポーター等役割分担	
3	H23.9月7日(水) 19：00～21：00	エコパーク申請の現在状況について マップづくりについて 国際照葉樹林サミットの感想	14名
4	H23.10月6日(木) 19：00～21：00	エコパークを利用した町づくり ～町の宝を探してみよう！①～・自然・体験プログラム	10名
5	H23.11月7日(月) 19：00～21：00	エコパークを利用した町づくり ～町の宝を探してみよう！②～・新規挑戦・郷土芸能	13名
6	H23.12月８日(月) 19：00～20：00	・今年の地域づくりＷＧをふりかえって ・ＢＲ登録シンポジウムでやりたいこと	12名
7	H24. 1月19日（木） 19：00～21：00	綾プロ事業説明会・ユネスコ委員視察と綾町宝発見 （地域づくりＷＧの取り組みを発表）	10名
8	H24. 2月9日（木） 19：00～20：00	エコパークを利用した町づくり ＭＡＰ記載重要点について考える	14名

事業名	照葉大吊橋ビジターセンター運営事業	実施主体	てるはの森の会・
項目−行動計画−実施項目	7-1-②	連携先	綾町
事業概要（目的）	照葉大吊橋食堂跡地において、「てるは森の驛」（1F：無料休憩所、照葉樹林に関するパネル等を展示するネイチャーセンター、3F:飲食物を提供する軽食堂）を運営する。 今年度は照葉大吊橋架け替え工事が行われ、10 月にリニューアルオープンした。それに伴い、3Fの軽食堂も9月までは休業した。		

○3F: 飲食物を提供する軽食堂「てるは森の驛」、水・木・金・土・日の週5日の営業。
2010 年より9月 2011 年 10 月まで綾照葉樹林大吊橋架け替え工事に伴い、休業。

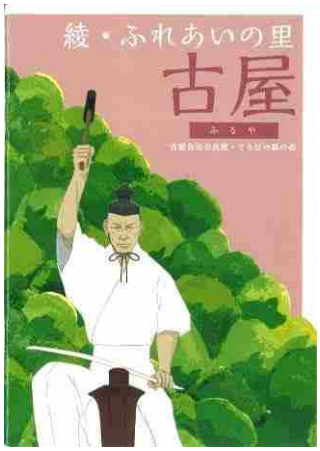
食堂のようす

１Ｆネイチャーセンター

○2F 和室をガイド及び作業道具置き場として活用

事業名	ふれあい調査（継続）	実施主体	NACS-J
項目-行動計画-実施項目	７－1－③	連携先	てるはの森の会・綾町
事業概要（目的）	町民参加により綾地域における人と自然とのふれあい、地域の人たちが大切にしている自然、ふれあいについて把握する調査を実施する。その結果を「ふれあいマップ」に表示したり、冊子にまとめるなど人々の思いや自然とのかかわりを可視化する。これを照葉樹林プロジェクトにおける地域づくりの資料として活用し、綾の照葉樹林と共存する地域の人たちが望む持続可能な地域づくりの実現につなげる。		

5月に開催した国際照葉樹林サミットにおいて上畑地区にて実施したふれあい調査について、また進行中の古屋地区のふれあい調査についてのポスター発表を行った。今年度は古屋地区でのふれあい調査をまとめることを目標に事業を進めた。地元からの意向で、地図ではなく地域の若い世代の人に昔のこと、特に水に苦労した集落であったことを伝え残したいということから聞き取りの冊子にすることとなっており、そのために、10月25日、26日に聞き取り調査、11月24日に地図への落としこみ作業、12月20日に東京での編集会議、1月9日打合せ、2月4日にうねび焚きの調査、2月15日打合せ、3月6日打合せと議論を重ね、冊子を完成させた。



また、7月31日には公民館の登館日に子どもたちが高齢者から話を聞くということミニふれあい調査も実施し子どもたちに絵を書いてもらった。

事業名	綾町の里やま周辺の植生調査	実施主体	NACS-J
項目-行動計画-実施項目	新規事業	連携先	てるはの森の会
事業概要（目的）	綾町の里やまの水田、畑、集落、二次林、河川の氾濫原など多様な生育地における植物のリストを作成する。また、この調査を通して希少種や絶滅危惧種の集中する地域のエリアを特定する。これらの調査結果はMABの綾BR地域協議会（仮）や綾町の生物多様性戦略策定に活用する。		

6月14日竹野、7月5日倉輪地区、7月12日倉輪、7月31日大平山、8月16日入野明見神社周辺（宮原）、9月13日大平山、10月11日尾立、11月8日川中、11月16日広沢、11月17日倉輪中心部釜牟田、12月13日諸県県有林トレッキングコース、1月10日錦原綾神社周辺、2月1日上畑、3月7日古屋地区において河野氏（綾町）が植物相の調査を行った。その結果綾町内において975種が記載された。このうち県のレッドリスト（2010）に記載された種は48種、国のレッドリストに記載された種は40種が見られ重要な生息地を含むことが分かった。

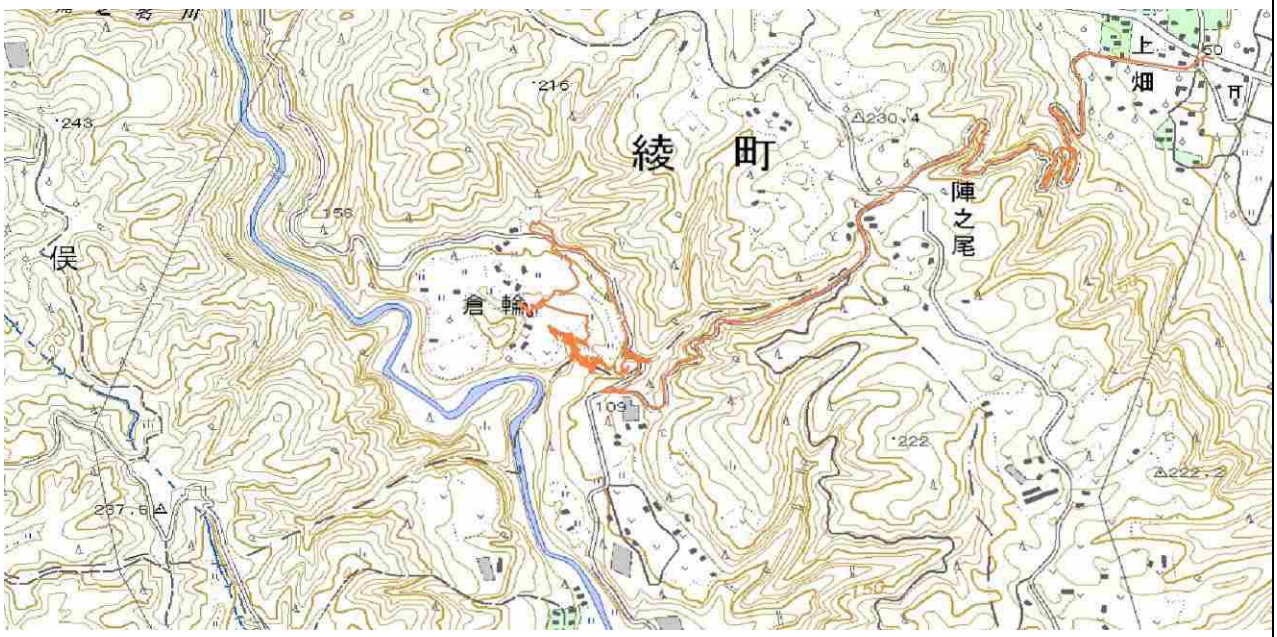


図　倉輪地区での調査ルート（7月12日）

事業名	ユネスコ エコパーク推進事業	実施主体	綾町
項目-行動計画-実施項目	新規事業	提携先	
事業概要（目的）	ユネスコ エコパークについて、町民等に対する意識の向上を図った。 ① ユネスコ エコパークの取組について ア 申請の経緯　イ 町民等に対する取組内容 ② ユネスコ エコパーク研修視察対応について		

① ユネスコ エコパークの取り組みについて

ア 申請の経緯

４月１１日　日本ユネスコ国内委員会へ仮申請

９月１２日　日本ユネスコ国内委員会へ正式申請

９月２８日　日本ユネスコ国内委員会が国内推薦決定

※推薦決定を受け、ユネスコ本部へ申請。

イ 町民等に対する取組内容

８月２２日　ユネスコ エコパーク申請を目指す綾と自然・諸条件について　対象　綾町教職員　参加者　約３０名

１０月２６日　国内推薦決定を受け１１月号月報でお知らせ　対象　町民　約３０００名

１月１９日　綾の照葉樹林プロジェクト説明会　対象　町民　参加者　約１３０名

１月２０日　生物多様性セミナー　対象　役場職員　参加者　約　６０名

１月２２日　綾町女性の集い「講演会」　対象　町民　参加者　約４００名

３月１０日　エコパーク予定地内現地研修会　対象　役場職員　参加者　約　５０名

② ユネスコ エコパーク研修視察対応について

１０月　６日　京都大学「綾の照葉樹林について」　研修人数　約４０名

１０月１３日　ＪＩＣＡラオス「綾の地域づくりとＢＲ」　研修人数　約１０名

１１月　９日　環境省九州地区自然保護係担当者「綾の地域づくりとＢＲ」　研修人数　約２０名

２月２１日　森林研究会（大学教授と海外研究者）「綾の森の歴史」　研修人数　約１０名

３月１４日～１５日　徳島大と勝浦町職員「綾のＢＲに対する取組」　研修人数 約１５名

３月２７日～２９日　南アルプス市と静岡市職員「ユネスコエコパークへの取組　現状と課題」　研修人数 約７名

発　行：平成 24 年 7 月
発行者：綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画 連携会議
編　集：てるはの森の会
お問い合わせ先：
〒880-0014 宮崎県宮崎市鶴島２丁目９－６ みやざき NPO ハウス 403 号室
TEL:0985-35-7288　FAX:0985-35-7289 電子メール:teruha@miyazaki-catv.ne.jp
ホームページ: http://teruhanomori.com